

Title	[主要な教育研究設備]平成27年度の主な改修改良事項
Author(s)	
Citation	京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告 (2017), 2015年(平成27年): 6-6
Issue Date	2017-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/233705">http://hdl.handle.net/2433/233705</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 4 主要な教育研究設備

### 4.1 主要教育研究設備

#### 飛騨天文台

60 cm 反射望遠鏡、65 cm 屈折望遠鏡、60 cm ドームレス太陽望遠鏡 (DST)、  
太陽磁場活動望遠鏡 (SMART)

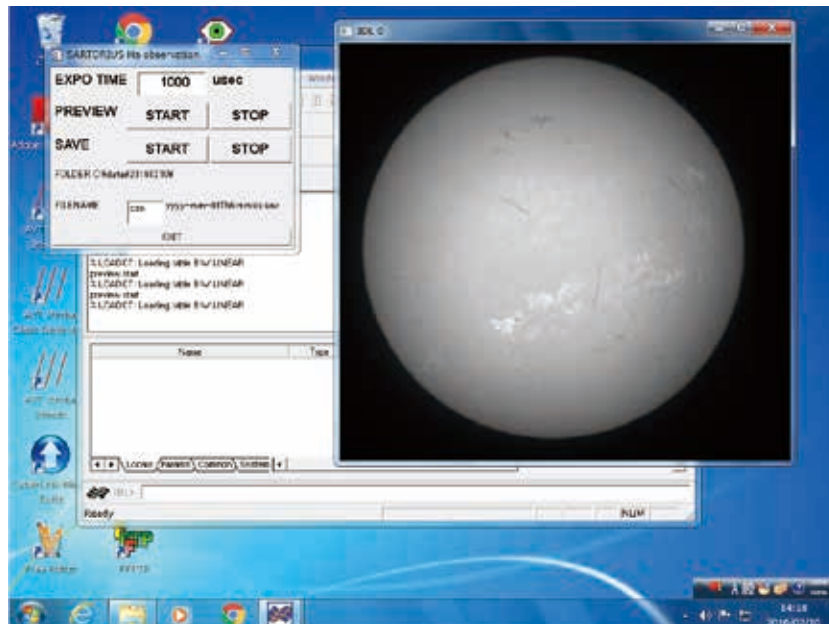
#### 花山天文台

45 cm 屈折望遠鏡、70 cm シーロスタット太陽分光望遠鏡、  
花山天体画像解析システム、18 cm 屈折太陽  $H\alpha$  望遠鏡 (ザートリウス望遠鏡)

### 4.2 平成 27 年度の主な改修改良事項

#### (1) 花山天文台 18cm 屈折望遠鏡 $H\alpha$ 観測システムの更新

花山天文台に 2001 年度に導入されたザートリウス太陽  $H\alpha$  全面像観測システムは、PC の老朽化 (動作、OS) が問題となってきたため、2014 年度より、宇宙ユニットの支援を受けて、カメラや PC の更新の検討を開始することとなった。検討の結果、カメラとして、アライドビジョンテクノロジー社の超小型ギガビットイーサネットカメラ (Mako G-419B) を選択した。カメラにあわせて、イメージングレンズの更新及び保持・ピント調整機構の設計開発も行い、2016 年 2 月に新システムでの観測を開始した。従来のシステムでは、全面像の時間分解能が最速で 1 分であったため、フレア時には観測者が領域を区切ることにより時間分解能をあげていた。新しいシステムでは、太陽全面像を、1 秒の時間分解能で常時取得可能となり、時間分解能が格段に向上した。



ファーストライト時の PC 画面 (2016 年 2 月 10 日)

(阿南、仲谷、石井)